

# 「この国のかたちを考える」

— 人と人との関係性のなかで生きるために —

“喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。”(ローマの信徒への手紙)

土曜日 13:30～15:30

『地獄への道は善意で敷きつめられている』(英国のことわざ)

『宗教の中に入っていちばんひっかかりやすいのが、この優越感』(「わたしのイエス」遠藤周作)

生きることの尊さ、愛おしさにおいて人は、皆同じいのちの恵みに生かされています。

しかし、社会の問題に取り組み、対応する中で、弱い立場の人々の気持ちや、苦しみを深く理解し、考えているでしょうか。「上から目線」で人を支配するような社会システムのもと、過酷な現実の中で更に傷つけられる結果になっていないでしょうか。人と人が生かし合える関係性の中で生きるとは・・・

いっしょに考え、学んでみたいと思います。

9月29日

生きる神と、ともに歩む  
—現実の中に神のみ心をたずね求めて—

澤田 豊成  
[聖パウロ修道会]

今を生きる人の苦しみ悲しみに、わたしたちはどう向きあうのか。そこに現れる神のみ心とはどんなものなのでしょう。

10月13日

若者に希望はあるか？

山田 昌弘  
[中央大学文学部教授]

日本の若者が生きにくいのは、なぜでしょうか。非正規雇用が増え、未婚者が溢れる社会の原因を探り、対策を考えます。

10月27日

少年達と関わって ～少年院の現場から～

小林 誠  
[少年院職員(医師)]

虐待やいじめなどの被害体験や恵まれない家庭環境など複雑な背景を持つ少年達と関わって感じたことをお話しします。

11月10日

看護の仕事はなぜつらい？  
—この国で病むこと老いることの大変さ

宮子 あずさ  
[看護師・随筆家]

講師の紹介や概要などは、講師からいただいたプロフィールが裏面にありますのでご覧ください。

11月17日

若年女性を取り巻く現状

橘 ジュン  
[NPO 法人「Bond プロジェクト」代表]

講師の紹介や概要などは、講師からいただいたプロフィールが裏面にありますのでご覧ください。

12月8日

事実を知り行動することの大切さ

渡辺 周  
[「ワセダクロニクル」編集長]

「旧優生保護法下での強制不妊手術問題」などの史実を掘り起こす報道の意義や、それを知りどう行動するかをともに考えます。

・申込・お問合せ

一般財団法人真生会館

〒160-0016

東京都新宿区信濃町 33 番地 4(JR 信濃町駅下車)

Tel

03-3351-7121・Fax 03-3358-9700

E-mail

gakushu@catholic-shinseikaikan.or.jp

URL

http://www.catholic-shinseikaikan.or.jp

\*土曜講座申込書 (FAX ご使用も可) ; \* 受講料 : 一回毎 ¥1,000 ・ 学生無料 (学生証ご提示下さい)

受講希望日に✓記入  9/29  10/13  10/27  11/10  11/17  12/8

お名前

ご住所 : 〒

連絡先 : TEL

E-mail

## 講師プロフィール

### 9月29日: 澤田豊成 [聖パウロ修道会]

カトリック司祭

1965年 東京に生まれる。

1996年 教皇庁立グレゴリオ大学卒業

1996年 司祭叙階

現在は日本カトリック神学院講師、日本各地に赴き研修会や黙想会の指導に務めている。

### 10月13日: 山田昌弘 [中央大学文学部教授]

1957年、東京都生まれ。1981年、東京大学文学部卒業。社会学者。「読売新聞」の「人生案内」回答者。「パラサイト・シングル」を命名。「格差社会」「婚活」という言葉を世に広める。著書に「底辺への競争 格差放置社会ニッポンの末路」「なぜ日本は若者に冷酷なのか そして下降移動社会が到来する」など他多数  
フロイトは、人としてできなければならないのは、「働くこと」と「愛すること」と述べた。

21世紀の日本の若者は、この両者がうまくいかなくなっている。非正規雇用が増え、未婚者が溢れる社会が出現している。その原因を探り、対策を考える。

### 10月27日: 小林 誠 [少年院職員(医師)]

### 11月10日: 宮子あずさ [看護師・随筆家]

1963年生まれ。大学を中退し看護専門学校に入学。1987年から看護師。東京厚生年金病院（現 JCHO 東京新宿メディカルセンター）に22年間勤務し、内科、精神科、緩和ケアなどを経験。看護師長も7年務めた。2009年から精神科病院で訪問看護に従事。また、1993年より大学通信教育で学び、短大1校、大学2校、大学院1校を卒業。2013年東京女子医科大学大学院博士後期課程修了。博士（看護学）。勤務の傍ら著述業。フリーの研究者として看護職への研究支援も行う。主な著書は『看護師という生き方』（ちくまプリマー新書）、『看護婦だからできること』（集英社文庫）他多数。

### 11月17日: 橋ジュン [NPO 法人 BOND プロジェクト代表・ルポライター]

2006年、パートナーのカメラマン KEN と共に、街頭の女の子の声を伝えるフリーマガジン VOICES を創刊。これまで少女たちを中心に3,000人以上に声をかけ、聞いて、伝えつづけてきた。2009年、10代20代の生きづらさを抱える女の子を支える NPO 法人 BOND プロジェクトを設立。虐待、家出、貧困など様々な困難を一人で抱えてしまう女の子に寄りそう「聴く、伝える、繋ぐ」を活動中。その日、行き場所のない今、困っている目の前の女の子のために街のパトロールや自主的に保護の活動も行なう。「動く相談窓口」として、出会いを求め、全国各地を飛び回っている。TV、新聞などメディアでも多数活動を紹介されている。著書に『漂流少女～夜の街に居場所を求めて～』（太郎次郎社エディタス）、『VOICES～キミの声を伝える～』（グラフ社）、『最下層女子高生～無関心社会の罪～』（小学館新書）がある。

### 12月8日: 渡辺周 [「ワセダクロニクル」編集長]

1974年神奈川県生まれ。

朝日新聞記者時代は特別報道部などで調査報道を担当する。

高野山真言宗の資金運用や製薬会社の医師への資金提供の実態などを報じたほか、原発事故後の長期連載

「プロメテウスの罫」取材チームの主要メンバーとして、高レベル核廃棄物のテーマにした「地底をねらえ」などを執筆。共著等に『プロメテウスの罫 3 福島原発事故、新たなる真実』『プロメテウスの罫 6 ふるさとを追われた人々の、魂の叫び!』（以上、学研パブリッシング）、『始動! 調査報道ジャーナリズム』（編著、彩流社）、『市民とつくる調査報道ジャーナリズム』